

京橋の印刷

120号記念号

東京都印刷工業組合京橋支部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-17-9
京華スクエア2F

電話. 3552-1855 FAX. 3297-3790

<http://www.kyobashi-shibu.org>

発行人 小宮山貴史

こんな時にこそ！

副支部長 森山 照明

日頃から支部活動にご協力をいただきありがとうございます。

小宮山体制も残りわずかとなってまいりましたが、引き続きご協力をお願いいたします。昨年3月11日に発生しました東日本大震災で未曾有の津波に襲われ、さらに福島第一原発の放射能汚染という大事故がおこり被災地では復興の目途が立たないという状況です。

また、円高株安状況が依然として続き、我々中小零細企業にとって大変厳しい状態が続いております。

このような時こそ、京橋支部皆で力を合わせ情報を共有しこの難局を乗り越っていきましょう。

今後も京橋支部では、小宮山支部長が就任の時に言われた「組合員が集まる場」「切磋琢磨しあう場」の提供を続けてまいります。支部員もここ数年減少傾向にあります。また東京一の規模です。こんな時にこそ、支部員各社数百人の営業マンを活用すれば、どんな仕事が来ようとその知識があればできない仕事はないはずで、組合のメリットを生かして積極的に利用していければと思います。

今後とも皆様方からご指導、ご支援を頂きながら意義のある支部活動を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

| | | | |
|----------------------|---|-------------------------|----|
| ● 新春のつどいに120人集う | 3 | 区内小学校へエコうちわ贈呈 | 8 |
| ● もくじ | | Facebookの可能性に注目…京青会セミナー | 9 |
| ムトウユニパック栃木工場見学…京青会 | 4 | 中小企業の危機管理…佐々敦之氏講演 | 12 |
| 「孫氏の兵法」「営業の見える化」セミナー | 5 | 支部の動き | 14 |
| ● 平成23年度通常総会 | 7 | | |

新春のつどいに120人集う 新たな印刷業の形づくりのスタートへ

1月26日、コートヤード・マリオネット銀座東武ホテル「桜」の間に来賓、組合員、関連企業120余人を集め平成23年『新春の集い』を開催、年の初めの賀詞を交歓し、新たな印刷業の形づくりのスタートへ向けて決意を新たにしました。

中央区の地場活かし一陽来復の年に

森山照明副支部長が司会進行を務める中、はじめに小宮山支部長が次のように年頭あいさつを述べた。

「2011年は新たな10年がスタートする年。21世紀最初の10年は世界構図が変わり情報伝達のあり方も変わった。今年は電子端末元年という。印刷業界も変わらざるを得ない。われわれは幸いにも中央区という活気に満ちたすばらしい地場をいただいている。印刷業はあらゆる職種を顧客に持つ。これを活かさずしてどうするのか。変化にひるまず積極的に取り組めば自ずと活路は見出せる。今年には新たな印刷業の形をつくるスタートとし、一陽来復の飛躍の1年にしよう」

人集まらずして繁栄なし、中央区活性化へ

来賓からは、矢田美英中央区長「中央区は一貫して人口が増え続けており、今年中には12万人を突破する勢い。人集まらずして繁栄なし。この人口増を起爆剤に閉塞感を打破していう」、水野雅生中央区工業団体連合会長「バブル崩壊から20年、その荒波を乗り越えた方々が本日、この場集っている。京橋支部はすばらしい仲間作りが図られている。区内他産業とともに一丸となって中央区の活性へご協力を」、と両氏が中央区における京橋支部の存在感に期待を込めた。

近代印刷発祥の地の誇りを胸にまい進

市瀬豊和(株)山櫻社長も関連業界を代表して「わが国、印刷発祥の地の誇りを持ち、業界を力強く牽引してほしい」と祝辞をおくり、来賓紹介へ。続いて田嶋一彌顧問が「悲観主義者はすべての好機に困難を見出す、楽観主義者はすべての困難に好機を見出す、とチャーチルは言った。われわれもプラス思考でこの苦境を乗り越えようではないか」と鼓舞し、声高らかに唱和して杯を上げ開宴した。

祝宴では和やかな歓談の時間をもたれる中、青年部・京青会(田嶋義之会長)運営による福引大会で大いに盛り上がり、1年の英気を養った。宴半ば、荒川龍治東京都印刷産業政治連盟会長が、「近代印刷発祥の地の誇りを胸に、精進しながらまい進していこう」と呼びかけ中締めとなり、白橋明夫副支部長のあいさつで散会した。



京青会

封筒製造の先端技術 ムトウユニパック栃木工場を見学

京青会は2月19日、(株)ムトウユニパック栃木工場（栃木県栃木市）で工場見学会を開催した。現役・OB合わせて11人が参加し、印刷から製袋、箱詰めまで高度にオートメーション化された輪転製袋ライン、効率化の図られた工場運用の設計ノウハウなど封筒製造の先端技術や、独自に開発したりサイクル製品への製造現場を視察した。

日産枚数400万、1300種の生産力

栃木工場は平成元年に操業、和封筒輪転部門、洋封筒の輪転・枚葉部門、糊部門、商品開発の4部門から構成されている。



平均日産枚数は約400万枚、封筒の種類では1300種だが、枚数として約1億枚の生産力を誇る。

各種・各サイズの和封筒・洋封筒に広く対応。輪転製袋機、

自動封入梱包機、印刷機、糊付機、自動型抜き機など封筒の大きさごとに専用の生産ラインを持ち、生産性、品質管理、セキュリティと広範囲にわたり独自のノウハウが活かされている。

印刷から箱詰をワンストップで

そのうちの1ラインは、印刷から製袋、箱詰めまでワンストップ対応する全自動輪転機。印刷↓型抜き↓糊付け↓折筋入れ↓折り↓切断↓糊付け・折込み——を経て封筒が完成。次の工程では梱包用の段ボールが組み立てられ、1箱に500枚ずつ梱包される。

100枚単位で中板を入れ、箱詰め後は底の方の封筒に折り癖がつくのを防ぐため、テープで箱に封をしたら、箱を横にして品質安定性を確保。この間、随所に設置されたCCDカメラで汚れなど不良品を逐一検査し、徹底した品質管理が実現されている。

近年ますます要望の高まる個人情報保護には、フレキシソニスによる裏地紋印刷を施した封筒で応える。リヨビほかUV印刷機を導入し、両面同時印刷後すぐに後加工へ。UV印刷の汚れが付きにくいという強みを発揮し、短納期・小ロット生産を可能にしている。

情報セキュリティの安全性を担保

封入封緘にも対応。検査装置を設けて確実に封が糊付けされているか検査装置と人の目で幾度にもわたりチェックして情報セキュリティの安全性を担保している。さらに、オーダーメ

イドにも広く応える。それを可能にするのがシユナイター社製のダイカットマシンだ。紙質にもよるが、1ストローク250枚の実力で、クライアント密着のサービスを提供している。

全3倉庫のうちの1つが全自動倉庫となっており、2463パレットがコンピュータ制御され、セットから早くて30秒で調達が完了する。環境面においては、3000坪の敷地の20%に緑地帯を設けるほか、グリーンエコ事業部を立ち上げ、工程で発生した断ちくずをリサイクルし、コーンスターチを混合して緩衝材や断熱材を製造してエコ商品として販売している。

高度なオートメーション化に感動

見学終了後、田嶋義之会長があいさつに立ち、ムトウユニパックへ対する感謝の言葉とともに、「日ごろから身近に手に



している封筒の製造工程を見学でき、貴重な勉強ができた。高度なオートメーション化に感動するとともに、現場は非常に整理整頓され、使った工具を元に戻す工夫など、『見える化』の取り組みも参考になった。今回得た知識を活かし、今後の営業活動へ役立てていきたい」と述べて締めくくった。

『孫子の兵法』で確実に売る

長尾一洋氏に

「営業の見える化」手法学ぶ

3月2日、東京・新富の日本印刷会館に(株)NIコンサルティング代表の長尾一洋氏を講師に迎え、「失注ゼロ・無駄足ゼロの『戦略的営業』」と『営業の見える化』と『孫子の兵法』で確実に売る！」と題してセミナーを開催、最古にして最高の兵法書であり戦略の原点『孫子の兵法』をベースに、20年で2500社のコンサルティングで培った長尾氏の「営業の見える化」手法から頑張っても売れない厳しい現代を生き抜く営業改革手法を学んだ。

仕事を勝ち取る時代が変わった

講演に先立ち小宮山貴史支部長が次のようにあいさつした。「回復基調にある日本経済にあつて、印刷業界においては未



だ先が見えずパラダイムシフトが叫ばれて久しい。黙っていても仕事が変わってきた時代から仕事を勝ち取る時代へと変わった。

とくにリーマンショック以降、広告宣伝費が真っ先に



削減されたことは、われわれの業界に暗い影を落とし、非常に激しい競争化を促した。根拠のない価格が一人歩きし、この業界を疲弊させている。業界が違っても、日本の中小企業では似たような状況に直面している。

そこで『営業の見える化』を提唱する長尾氏にこれからの営業のあり方やその仕組みの見直しをテーマに講演いただくこととした。本日の講演が皆様の事業の発展に寄与することを祈念している」

長尾氏の講演要旨は次のとおり。



改革・革新が求められている

営業プロセスはブラックボックス、訳も分からず「とにかく頑張れ」というばかりでは営業生産性が落ちるばかり。それがつづれる会社のメカニズムである。営業活動は諜報活動、顧客にまつわる情報を収集することで、顧客との関係を有利なものにしていくべき。

営業マネジメントの必須ツールとは、日報、顧客カード、案件リスト。顧客ニーズや競合の動きをつかみ、自社の営業アプ

ローチをつかんで、日々その修正を行うことは営業マネジメントそのものであって、そのためのIT化は必然である。

時代や環境の変化によって営業のあり方、企業のあり方を変えていかななくてはならない。営業の根幹である「売ること」を革新・改革することが求められている。「見える化」とはその道具に過ぎない。

長尾一洋氏 (株)NIコンサルティング代表取締役、中小企業診断士、孫子兵法家。横浜大学卒業後、経営コンサルティング会社で営業指導と戦略策定、人事改革を経験して独立。1991年にNIコンサルティングを設立、日本企業の経営体質改善、営業強化に従事している。IT活用にも積極的に取り組み、1998年より「可視化経営システム」を開発・販売、導入企業は2500社超。ITによる仕掛けづくりと営業環境の「泥臭さ」を融合させる日本唯一のコンサルティングを展開。主な著書に『孫子の兵法経営戦略』（明日香出版社）、『営業の見える化』（中経出版社）ほか



「経営者は自ら後ろ姿示せ」 共に学び競い合う「清交の場」に

5月24日、銀座ラフィナートで通常総会を開催し、平成22年度事業・収支決算報告、23年度事業計画・収支予算案などを審議し、すべて原案どおり承認した。今年度も引き続き、「親睦と相互扶助」のもと、組合活動を充実させ、組合員に有意義な「清交の場」を提供していく。また、小宮山支部長は業界の厳しい状況を打破するために、「経営者自らが、後ろ姿を社員に示してほしい。これが業態変革の第一歩となる」と支部活動への積極的な参加を求めた。

業態変革は先送りできない



小宮山支部長挨拶

あいさつに立った小宮山貴史支部長は、衰退期に入る印刷業界は、もはや業態変革を先送りできないことを強調し、次のように述べた。「業態変革は、長年培ってきた技術を縦糸に見立て、そこへ新しい横糸を通しながら、これまででない柄の織物を織ること。経営者自らが、後ろ姿を社員に示してほしい。これが業態変革の第一歩となる」

23年度事業は親睦と相互扶助のもと、情報共有・研修・懇親の3つの「場」を提供することで、組合活動が共に学び、競い合う「清交の場」となることを目指す。

具体的な計画は、経営革新・マーケティング対策事業、環境保全対策事業、消費電力削減のためのアクションプランの推進、行政や関連組合との連携などを挙げている。

来賓あいさつでは、花崎博己東印工組副理事長が消費電力削減のためのアクションプランの対応を呼びかけ、業界が一丸となって節電に取り組むよう協力を求めた。また、矢田美英中央区長は、被災地の視察を報告。区の防災対策に全力で取り組みと述べ、また、震災の影響を懸念し、区の融資制度の活用を促した。



会場風景



来賓挨拶
花崎東印工組副理事長



懇親会



来賓挨拶
矢田中央区長

節電教育に一役

区内小中校へ「エコうちわ」贈呈

京橋支部・日本橋支部共同で

東京都中央区を地場とする京橋支部と日本橋支部（長谷川豊支部長）はこのたび、節電教育の一助として区内の小中学校へ6800本の「エコうちわ」を贈呈した。うちわは夏をイメージするスイカとペンギンがデザインされ、裏面の「節電こつこつクイズ」に挑戦することで、日常生活で実践できる節電の知識が身に付く。なお、被災地NPOの協力を得、石巻へも500本が贈られた。

京橋築地小学校・有馬小学校を訪問

6月23日、小宮山貴史・長谷川豊両支部長が区内の小中学校を代表して京橋築地小学校および有馬小学校を訪問し、贈呈式が行われた。京橋築地小学校の新井ひろみ校長は、「子どもたち一人ひとりがしっかりと節電の役割を担うきっかけとなれば。家庭でもこのうちわを話題にしてほしい」と話し、有馬小学校の大橋稔校長も「クイズを楽しみながら節電を意識することで、日本の置かれた状況をそれぞれの発達段階に応じて学んでもらいたい」と、感謝のコメント。

「組合としても節電に取り組むことは社会的責任。われわれの技術とノウハウで地域のお役に立てることがありがたい。中

央区は近代印刷発祥の地であり、ここで印刷は長く地場産業として発展してきた。子どもたちには、そんな印刷産業を身近に感じてもらいたい」と小宮山支部長と長谷川支部長は話した。



京橋築地小学校



有馬小学校

Facebookの可能性に注目 SNSをビジネスに活かそう

～京青会6月度セミナーより～

京青会は6月27日、東京・八丁堀の京華スクエアで6月度研修会として初心者を対象にしたFacebook（FB）セミナーを開催した。講師は(株)Aveclair代表で全日本Facebookサミットの中心メンバーとしてネットビジネスの指導や講演で活躍する工藤靖氏。FBの概要や楽しみ方、ビジネス展開の方法などを学んだ。関心の高さからOBや他支部からのオブザーバーも含め約30人が参加し、スマートフォンやiPad、PCを持参してのインタラクティブな講義で大いに盛り上がった。

ユーザー7億人超の世界最大SNS

利便性が日進月歩で進化するスマートフォンやiPadなど非PC端末のユーザーの数は順調に推移し、2012年には非PC端末の出荷台数がPCを超えるとの見方も示されている（米国調査会社IDC調べ）。

そうした流れの中、FBのユーザーは5月末現在で全世界7億人を超え、世界最大のソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）となった。日本では360万人ともいわれ、その裾野の広さとコミュニケーションの可能性からビジネス展開の

有効なツールとしても注目されている。

米国調査会社Hitwiseによると、3月には米国で検索エンジン大手Googleのアクセス数を抜いたという。すでに調べものにはFBのコミュニティーを活用するユーザーが増えていく。

工藤氏は、「SNSが世の中に浸透し、社会的影響力を増している今、△やるか、やらないか▽ではなく、△いかにビジネスへ活用するか▽を考えるべきである。営業の本質は新規顧客開拓よりも既存顧客の維持、どう△太らせるか△であり、それに注力するためのツールがSNSである。今、SNSに取り組まなければ完全に時流には乗れない。それは企業にとって大きなリスク」と強調、さらに、FBを中心としたSNSの特徴や活用方法、細かいプライバシー設定が可能な安全性にも言及した。

以下に講演要旨をまとめる。



オープン、コネクト、シェアのポリシー

SNSが自ら情報を発信する。いつでも、どこでも、誰とでもつながるユビキタスのメディアであるのに対し、FBは△今だけ、△ここだけ、△あなただけ△、より密度の濃い交流を求めている場であり、有益な情報の拡大鏡となる。究極的にはピンポイントの交流が生まれる。複数のメディア間でのコネクトも可能だが、連携しすぎるとノイズが出るので気をつけたい。

日本でも色々なSNSが個人ユーザーを中心に活用されてい



対にTwitterは、リアルタイムのコミュニケーションメディアでテレビのスポットCM的な使い方で活きる。

また、YouTubeはビジュアル・オーディオ的要素でインパクト大、現在、世界最大の動画共有サイト。ブログはしっかりとしたポリシーと内容を伝えたいときに便利、記事をカテゴリー分けしてアーカイブできる。企業サイト（ホームページ）は発信元の信頼性や安心感があり、自社の製品などの情報を伝えるのに有効なメディアとなり得る。

「のぞき見趣味」くすぐるコミュニケーション

FBへ参加するにはまず、FBサイト（www.facebook.jp）へアクセスし、メールアドレスやパスワード、氏名、居住地、性別などを入力して登録する。それから、「友達」申請と承認を経て、合意した人とつながることができる。

個人のページを「ウォール」と呼ぶ。主に、自分や友達の投稿が見られる「ニュースフィード」、個人メールとしての「メッセージ」、招待を受けたイベントが確認できる「イベント」機能、

る。その中でもメジャーなメディアの特徴を簡単に挙げると、FBは人と人とのコミュニケーションの場。瞬時の反応が必須ではないが、上手に活用すればここに様々なメディアを集約できる。反

すべての友達が表示される「友達」、参加しているグループのページ、などで構成される。

FBは人間が本来持つ「のぞき見趣味」の本能をくすぐる。友達の投稿に共感したり感心したりしたときに押す「いいね！」ボタンは、相手を慮りいたわる気持ちも含まれ、30通りほどの意味合いを持たせることができる。まめに気軽に「いいね！」を押そう。

個人のページだけでなく、グループページや企業などのファンページも作成できる。この時にはターゲットを相手にするのか、目的を明確にしてほしい。ファンページで大切なのは自社サイトと同じことを書かないこと。自社のビジネスの紹介は10%くらいに止めたい。あいさつなどの決まり文句よりも、有益な情報を多く投稿すること。

と。ファンページで25人の「いいね！」が集まるとオリジナルURLを持つことができる。ただし、ブランド力のある会社でなければ25人を集めることは容易ではない。

メールメッセージやリアルタイムの会話ができるチャットなどを一括でチェック可能な自分独自のメールアドレスの取得はぜ





からすぐにも申請してほしい。

マナー守ってセンス良くハイタッチに

FBのコミュニケーションでは相手のウォールを汚さないのがマナー、投稿する時は十分に意識してほしい。Webだからこそセンス良く、相手の感情に配慮しながらハイタッチなコミュニケーションを楽しもう。FBの開発ポリシーはオープン、コネクト、シェア。オンラインからオフラインでフィジカルなつながりが生まれる。FBという自分のメディアを持つことは、実名主義で所属を明らかにし、コミュニケーションすること。だからこそ、有益で信頼性の高い情報を得ることができる。

FBはSNSのまとめ役であり、ファン(Fan)との楽し

みおすめ。このアドレスからYahooやGmailなどほかのアドレスも管理でき、FBユーザー以外の人も受送信が可能。
<※@facebook.com>というように※の部分で自分の名前やニックネームにできるが、誰かと同じものは登録できない。早い者勝ちなので専用ページ(<https://www.facebook.com/about/messages/>)

い(Fun)コミュニケーションの場。企業で部署やグループの上納共有に活用すれば業務効率の向上にも役立つ。これからSNSは公私両面でコミュニケーションの必須ツールとなる。単なる流行りものとしてではなく、好きになって食らい付くらしいの姿勢で使い倒してみしてほしい。



新たなコミュニティーに刺激受け

田島義之会長は結びにあたり、工藤氏へ感謝の辞とともに次のようにあいさつした。

「自分も半年ほど前に始めて以来、学生時代の友人とのコミュニケーションが復活したり、印刷業界の若手経営者の仲間とのつながりができたりと、新たなコミュニティーからたくさん刺激を受けている。本日のセミナーでFBを含めたSNSの奥の深さを実感し、大いに勉強になった。情報加工産業としての便利なツールをどうビジネスに活用していくのが今後の課題。京青会でもさらに学びを深め、コミュニケーション精度を

アップしながら有意義な活動へ活かしたい」



東印工組京橋支部・日本橋支部 佐々敦行氏が講演

中小企業の危機管理学ぶ

東京都印刷工業組合京橋支部（小宮山貴史支部長）と日本橋支部（長谷川豊支部長）は9月26日、東京・新富の日本印刷会館で『今こそ！「中小企業の危機管理」』と題して講演会を共催した。約85人が参加し、元内閣安全保障室長で「危機管理」の第一人者、佐々淳行氏を講師に招き、その豊かな見識と非常時における中小企業リーダーの役割などを学んだ。



佐々氏

冒頭、小宮山支部長がいさつに立ち、「政治、経済、防衛、教育、さまざまなリスクにわれわれは直面している。もう先送りはできない。ないない尽くしの中でも何とか経営を続けていかななくてはならない。本日の講演をそれぞれの経営と危機管理の糧に」

感を述べて閉会した。

佐々氏は元内閣安全保障室長、1954年に警察庁入庁以来35年4カ月、治安・防衛・外交という国家の基本的任務に従事。平成元年に退官し、「危機管理」の第一人者、スペシャリストなどと呼ばれ、長年の豊かな経験と見識を活かしながら講演・執筆活動を行っている。

主な功績には、警備課長・外事課長として現場指揮を執ったケネディ暗殺事件調査、東大安田講堂事件、連合赤軍あさま山荘事件、よど号ハイジャックほか一連の重大事件。さらに、初代内閣安全保障室長として中曽根・竹下・宇野と3代の総理を補佐、大島三原山噴火全島民避難、なだしお衝突事故、昭和天皇大喪の礼警備などにも携わった。

即座の決断力と

命令・遂行確認

佐々氏は講演の中で、「印刷会社の経営者の危機管理とは、



小宮山支部長

と、開催意図を述べた。講演終了後には長谷川支部長が、「リーダーには常に決断が求められている。10人以下の組織でもリスクを常に念頭に置くべきことを再認識できた」と所



長谷川支部長

活字文化を後世へ伝えること。インターネットとの融合が危機克服の大きなカギ」と説明。危機管理におけるリーダーの条件として、悪い情報に対する関心、どんな情報であつても報告者を怒らないこと、即座の決断力と命令・遂行確認ができること、を挙げ、自信を持ってトップダウンする大切さに言及した。

そして、「経営者は耳の痛いことでも遠慮なく言う社員こそ大切にしくはなくてはならない。ただし、単に反対しているだけなのか、根拠ある逆命立言なのかをきちんと見分けたい」と指摘し、次のように締めくくった。

「会社がいざという時に地獄まで付いて来てくれる社員は1握り。社員は4種類、1つは『人材』、使い方によって活きる材料。2つ目は『人在』、ただいるだけで言われたことしかしない。3つ目が『人罪』、存在が害となる。4つ目が『人財』、これがまさに人の宝。リーダーとしてこの『人財』を見つけてほしい」



佐々氏に「中小企業の危機管理」を学んだ

支部の動き

▽平成22年度

10月7日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館2階

10月13日(水)技術動向研修会

於・富士フイルムグラフィックシステムズ

(株)

10月14日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の

会

於・京華スクエア2階

10月27日(水)第5回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

10月31日(日)11月3日(日)水祝)第16回中央区

産業文化展(へそ展)

於・晴海トリントンスクエアグラントロ

ビー

11月4日(木)本部理事会

於・日本印刷会館2階

11月11日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の

会

於・京華スクエア2階

11月24日(水)第6回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

12月2日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館2階

12月3日(金)京橋支部「拡大幹事会」

於・登亭 銀座博品館店

12月8日(水)第7回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

▽平成23年度

1月17日(月)役員打合せ会

於・京華スクエア2階

1月26日(水)第8回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

1月26日(水)平成23年『新春のつどい』

於・コートヤード・マリオート銀座

東武ホテル「桜の間」

司会 副支部長 森山 照明

○開会

○年頭挨拶

○来賓祝辞

・中央区長

矢田 美英様

・中央区工業団体連合会会長

水野 雅生様

○関連代表祝辞

・(株)山櫻取締役社長

市瀬 豊和様

○来賓紹介

・中央区区民部部長

齋藤 弘様

・中央区区民部商工観光課課長

黒川 眞様

・東京都印刷工業組合日本橋支部支部長

長谷川 豊様

・東京商工会議所中央支部事務局長

安島 潔様

・東京都製本工業組合京橋支部副支部長

関口 真徳様

・中央厚生事業協同組合常任理事

谷島 豊様

○祝賀会開宴

祝杯

・京橋支部顧問

田島 一彌様

・関連業界出席者紹介

・福引大会

○中締め

東京印刷産業政治連盟会長

荒川 龍治様

○閉会のことば

副支部長 白橋 明夫

1月26日(水)東製工組・京橋支部「新年研修会」

於・SUNAMI 高松銀座7丁目店

2月3日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館2階

2月4日(金)本部「組合員の集い」

於・ホテルグランドパレス

2月10日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の

会

於・京華スクエア2階

2月17日(木)中央区工業関係者表彰式

於・銀座プロッサム

2月23日(水)第9回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

24日(木)部長・監査・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

3月2日(水)京橋支部・「講演会」

於・日本印刷会館2階

・テーマ…失注ゼロ・無駄足ゼロの「戦略的営業」

・講師…長尾一洋氏(株)NIコンサルティン
グ代表取締役(中小企業診断士、孫子兵法家)

3月3日(木)本部支部長会

於・日本印刷会館2階

3月10日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

3月23日(水)第10回・ハイテクセンター・ランチ

セミナー

於・京華スクエア2階

3月24日(木)本部理事会

於・日本印刷会館2階

3月25日(金)「臨時」V部長・監査・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

4月14日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

5月11日(水)部長・監査・地区長・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

5月24日(火)23年通常総会

於・銀座ラフィナート「日光」・「クーパー」

1、あいさつ

司会 副支部長 田島久義

小宮山支部長

2、議長および副議長の選出

3、議事

第1号議案 平成22年度事業報告

第2号議案 平成22年度収支決算報告

第3号議案 平成22年度会計監査報告

第4号議案 平成23年度事業計画(案)

第5号議案 次期役員選考委員の選任について

第6号議案 議長および副議長の解任

第7号議案 前期支部長への感謝状および前期役員への記念品の贈呈

第8号議案 来賓紹介・あいさつ

第9号議案 東京都印刷工業組合副理事長

中央区長

中央区区民部商工観光課課長

花崎 博己様

白橋副支部長

永井副支部長

羽生・小森監査

小宮山支部長

白橋副支部長

永井副支部長

白橋副支部長

羽生・小森監査

小宮山支部長

黒川 眞様

中央区工業団体連合会事務局長

出竿 恒夫様

東京都印刷工業組合日本橋支部支部長

長谷川 豊様

東京商工会議所中央支部事務局長

山下 昌敏様

東京都製本工業組合京橋支部支部長

橋本 勝政様

中央厚生事業協同組合常任理事

谷島 豊様

7、閉会のことば

永井副支部長

懇親会

進行 副支部長 森山照明

1、あいさつ 小宮山支部長

2、長寿者 祝賀および記念品の贈呈

3、長寿者代表挨拶・新富地区 神林印刷(株) 神林 克明様

4、乾杯 京橋支部顧問 松岡誠一郎様

5、中締 京橋支部前支部長 羽生監査

6月9日(木)部長・監査・地区長・京青会会長の会

於・京華スクエア2階

6月16日(木)顧問・相談役・参与の会

於・ホテル西洋銀座 地下1階「イントラ」

6月22日(水)富士ゼロックス(株)「お客様価値創造

6月22日(水)富士ゼロックス(株)「お客様価値創造

6月22日(水)富士ゼロックス(株)「お客様価値創造

6月22日(水)富士ゼロックス(株)「お客様価値創造

6月22日(水)富士ゼロックス(株)「お客様価値創造

センター見学会」

於・横浜・富士ゼロックス(株)

7月26日(火)「拡大幹事会・納涼会」

於・八重洲富士屋ホテル2階「レストラン

& パーウイステリア」

8月4日(木)ITセミナー「クラウドが印刷に与える影響」

於・京華スクエア2階

9月12日(月)技術セミナー「印刷会社にリーク生

産方式」

於・京華スクエア2階

9月26日(月)「中小企業の危機管理」講演会・日

本橋支部との共催

於・日本印刷会館2階

慶弔報告

慶事(結婚)

○築地地区

小森印刷(株)社長ご子女

小森 悦子殿

3月

弔事

▼八丁堀地区

(株)実誠堂社長

田中健太郎殿

3月

▼築地地区

永和堂(株)社長ご母堂

神田ちせ殿

7月

▼銀座地区

研友社印刷(株)社長ご母堂

新井愛子殿

8月

▼入船地区

弘報印刷(株)社長ご母堂

津下八重子殿

9月

支部員の異動

●脱退組合員

・新富地区、新富印刷(株)

徳永孝明

11月

・月島地区、中山印刷所

中山廣一殿

11月

・湊地区、湊印刷所

山本庄一殿

11月

・湊地区、上二ビジネスフォーム(株)

北原敏郎殿

12月

・銀座地区、(株)山崎屋

山崎隆三殿

1月

・新川地区、(有)一星社

鈴木惠美殿

3月

・八丁堀地区、先川印刷(株)

先川允久殿

4月

・築地地区、サンロウタス(株)

村上 伶殿

4月

・新富地区、(有)エススリーカンパニー

坂上健二殿

4月

・八丁堀地区、昭和印刷(株)

藤井賢一殿

6月

・新川地区、(有)正明堂會津印刷所

會津正明殿

6月

・入船地区、(株)文英堂

畑井健寿殿

8月

・新富地区、(株)栄輝堂印刷所

香川輝夫殿

8月

○支部異動

・築地地区、杜陵印刷(株)

大野志郎殿 6月(文京支部より転入)

銀座地区親睦会旅行

銀座地区親睦会では二泊三日の日程で左記のような「韓国旅行」を行いました

・催行日 平成23年10月8～10日

・参加人数 10名

・宿泊ホテル ザウエスティン チョースン ソウル

(南大門近く)

・観光 ソウル市内・明洞(ミョンドン)・景福宮・

烏頭山統一展望台(北朝鮮国境) 鷲梁津水

産市場(フリヤンジンズサンシジャン) 他

・観劇 NANTA(4人のコックが練り広げる、

台詞の無い、どたばたコメディ劇)

・ショッピング 高麗ニンジン・皮製品・松茸・メ

ガネ・ブランド(?) 腕時計・ブランド

(?) 財布

・体験 カジノ・韓国式サウナ(アカスリ) 他

・食事 松茸焼・焼き肉料理・アワビ粥(朝食)・

石焼きビビンバ・参鶏湯(サムゲタン) 海

鮮料理(水産市場で購入した食材を、市場

内の食堂で調理して出してくれる)

◎現地にて契約した観光ガイドの案内により、他にも色々ところを紹介していただき韓国を満喫することができました。